平成24年度東海連盟秋季大会

豊田 秋制覇

6年ぶり3度目

「平成24年度東海連盟秋季大会」は40チームが参加し、10月13日から愛知県豊田市の豊田運動公園などで開かれた。11月4日、岐阜県大野町の運動公園レインボースタジアムで行われた決勝は豊田が岐阜を破り優勝。2006（平成18）年以来6年ぶり3度目の秋制覇を果たした。3位決定戦は愛知衣浦が愛知西に逆転勝ち。この4チームは来春、関西で開かれる「第19回全国選抜大会」の出場チームとして推薦される予定。豊田の藤村哲之投手が最優秀選手賞に輝いた。

平成24年度 東海連盟秋季大会

修羅場くぐった経験が生きた！

決勝戦も完勝だった。豊田が前評判通りの力を発揮し、6年ぶりに秋制覇。小林晋也監督（55）はホッとした表情をみせた。

「やっぱりプレッシャーがありました。（充実した戦力で）選抜大会に出られなければ恥ずかしいし。でも、みんなリラックスしていましたね。修羅場をくぐってきた選手ばかりですから」

スタメンのうち7人は今年の日本選手権優勝メンバー。なかでも捕手の山本凌平ら4人はレギュラーだった。いまエースナンバー「1」を背負う左腕・藤村哲之も「背番号18」をつけて準決勝、決勝で先発するなど、神宮のマウンドに何度も立っている。「日本一」は大きな財産となって新チームに受け継がれたのだ。

秋を制した豊田ナイン

「ヒットは少ないけれど、足をからませることができた。ずっとプレッシャーをかけ続けていたので、相手も力んでいましたね」

決勝は岐阜より1本少ない5安打。それなのにスコアは7－0。プレッシャーが相手のバッテリーや野手のミスを誘い、大差となった。神宮で関東の強豪を次々に撃破した経験が、試合運びに余裕をもたらしたのだろう。

あとはこの力を来春まで、いかに持続させるか。「他の選手のレベルアップですね。底上げしないと。厳しくいきますよ」。

選抜大会では関東、関西のチームも徹底マークしてくるだろう。はね返す力を蓄えるには猛練習あるのみ。夏春連覇を目指し、豊田が新たなステージへ踏み出す。

6年ぶりの秋制覇で兄弟V投手誕生

◆…秋季大会の優勝は6年ぶりの豊田。実はその時のエースが、現在の藤村哲之投手の兄、孝典さん（20、現トヨタ自動車軟式野球部）だった。珍しい兄弟V投手だ。当時の豊田シニアには、いまプロ野球広島の磯村嘉孝捕手（20）が在籍しており、翌年の春季大会も制覇。夏の大会でも3位に入り、日本選手権に出場した。黄金時代の再現なるか、注目だ。

◆決勝で適時三塁打。ベストナインに選ばれた豊田・杉本勇主将（内野手）

「前回も選抜に出たけれど東海大会は5位だったし、日本一になった今年の夏も東海では4位でした。この大会の優勝が目標だったので本当にうれしいです。選抜大会では東海の1位として恥ずかしくない試合をして優勝したいです」

◆最優秀選手賞を受けた豊田・藤村哲之投手「（名古屋北戦で）7失点したこともあったけど、最後は無失点で抑えられた。一戦一戦、成長できたと思います。この冬にもっと自分を鍛え、その力を選抜で爆発させたいです」

豊田が貫禄勝ち

▽1回戦
知多東浦 7－0 春日井
岐阜中濃 8－1 尾張東
高岡 11－1 富山東
津田四日市 10－2 愛知江南
豊田 2－0 鈴鹿
岐阜 3－2 瀬戸
福井永平寺 3－1 尾張一宮
愛知衣浦 3－0 愛知木曽川
▽2回戦
中津恵那 6－4 高岡
岐阜東濃 4－2 白山
知多東浦 10－0 津
稲沢 2－0 金沢
名古屋北 14－2 美濃加茂
岐阜 11－1 能登
小松加賀 7－1 岐阜
豊田 14－0 亀山
愛知西 16－0 名古屋中央
豊橋東 2－1 知多
津田四日市 8－1 岡崎
愛知衣浦 7－0 高山
福井永平寺 7－0 小牧
各務原 9－1 名古屋南
名古屋東 5－2 海山
三河安城 8－0 岐阜中濃
▽3回戦
津田四日市 9－1 各務原
愛知西 2－1 知多東浦
豊田 2－1 岐阜東濃
小松加賀 9－2 中津恵那
福井永平寺 1－0 稲沢
名古屋北 5－3 三河安城
岐阜 4－0 豊橋東
愛知衣浦 2－0 名古屋東
▽準々決勝
岐阜 5－2 津田四日市
愛知西 3－0 小松加賀
豊田 16－7 名古屋北
愛知衣浦 2－1 福井永平寺
▽準決勝
岐阜 5－3 愛知衣浦
豊田 7－1 愛知西
▽3位決定戦
愛知西100 000 0＝1
愛知衣浦000 300 ×＝3
（西）前田、長坂―伊藤
（衣）横尾―斎藤健
二＝右原（衣）
▽決勝
豊田321 000 1＝7
岐阜000 000 0＝0
（豊）藤村、野瀬―山本凌
（岐）青木―西川
三＝杉本（豊）
〈決勝戦得点経過〉
豊田は二回、先頭の内藤涼一が右前打し、盗塁と捕逸で三進。3番・山本凌平は内野ゴロだったが、ホーム悪送球の間に内藤が生還。さらに杉本勇の右越え三塁打と鈴木統偉の右犠飛で2点を挙げた。二回と三回には四球と相手の失策で、ノーヒットで3点を追加。

先発の左腕・藤村哲之は毎回のように安打を浴びたが単発でしのぎ、六回から同じ左腕の野瀬明大につないで無四球（1死球）完封リレーを完成させた。

岐阜は先発左腕の青木翔也が7四球と安定せず、内野も5失策と自滅する形で敗れた。

10人が表彰された

【表彰選手】
▽最優秀選手
藤村　哲之（豊田）
▽ベストナイン
杉本　勇（豊田）
山本　凌平（豊田）
内藤　涼一（豊田）
青木　翔也（岐阜）
尾畑　聖也（岐阜）
朝倉由之佑（岐阜）
横尾　蓮太（愛知衣浦）
橋本　龍馬（愛知衣浦）
伊藤　壮太（愛知西）

最古参の岐阜が初の全国大会へ

㊀…創立40年。東海連盟最古参の岐阜が初の全国大会出場を射止めた。1回戦から瀬戸、能登、豊橋東、津田四日市、愛知衣浦を撃破。決勝では豊田に屈したが、みごと準優勝だ。朝倉伸一郎監督（61）は「よくここまで来てくれた。1つ勝つたびに自信をつけて…。この大会のおかげで、だいぶ成長しましたね」と選手をねぎらった。

準優勝の岐阜ナイン

決勝は左腕エースの青木翔也が先発。しかし課題の立ち上がりに、守りのミスもあって3点を先制された。二回には内野失策が続き、ノーヒットで2点を失う。打線も相手投手を攻めあぐみ、相手（5安打）を上回る6安打を放ちながら完封負けしてしまった。

「最後は（豊田との）キャリアの差が出ましたね。やはり場数を踏まないと。春までにみっちり鍛えて、ランクを1つくらい上げていきたい」。選抜の晴れ舞台を前に、冬は練習漬けになりそうだ。

「もう1枚投手を」と3位の愛知衣浦

㊁…愛知衣浦が3位に入賞した。愛知西との決定戦は1点をリードされた四回、6番・野村大二朗の2点打で逆転。エース横尾蓮太が二回以降を2安打に抑え込んだ。

「横尾を中心にした守りのチームです。でも彼が投げないと勝てないところがあって」と島田圭一監督（44）。準々決勝までの4試合で1失点と抜群の安定感だったが、横尾が投げなかった準決勝の岐阜戦は5点を奪われ、敗れてしまった。

3位入賞の愛知衣浦ナイン

「もう1枚（先発投手が）ほしいですね。候補はいるので、年内（の試合）は横尾抜きで回していきます」。選抜大会は最大6連戦。投手は3人でも4人でも多いほどいい。「野手もあと何人か入れて、ポジション争いさせていきたい」と、投打ともにレベルアップを図っていくつもりだ。

鍛え直せるか愛知西の宿題

㊃…愛知西は一回、先頭の甲斐翔貴が左前打。二死二塁から4番・伊藤壮汰の左前打で1点を先制した。しかし、二回以降は立ち直った愛知衣浦のエース横尾蓮太に抑え込まれ、散発2安打で二塁も踏めず。懸命の投球を続けた先発左腕の前田翼は四回、味方の失策から崩れて3安打で3点を失い、逆転されてしまった。

来春の全国選抜出場権を得た愛知西ナイン

半田安利監督（55）は「（四回は）記録はヒットかもしれないが、捕れる当たりがあった。この守備力では大阪（選抜）へ行っても恥ずかしい」と意気消沈。冬の間にどこまで鍛えられるか。難しい宿題が残った。

豊田シニア"日本一"を祝う

「日本選手権」初Vで新たな歴史刻む

8月に行われた「第40回日本リトルシニア野球選手権大会」で初優勝を飾った豊田シニア（倉知俊彦会長）の優勝祝勝会が9月23日、愛知県豊田市の名鉄トヨタホテルで開かれた。

出席者は太田稔彦豊田市長ら来賓、地元企業関係者、東海連盟の役員や各チーム、全国の友好チーム関係者340人。同シニアOBが活躍する中京大中京高、愛工大名電高などの高校野球関係者や、現在の選手が在籍していた少年野球関係者も多数が顔をそろえた。また、同シニア出身で、広島東洋カープで活躍する堂林翔太、磯村嘉孝両選手からは祝電が寄せられた。

祝賀会では決勝戦をはじめとする試合の模様がスライドショーで紹介され、地元の『松平わ太鼓』がにぎやかな演奏で盛り上げた。

（写真はすべて同チーム提供）

"日本一"に輝いた豊田ナイン

◆日本一までの足跡
豊田 ▽1回戦 2－1 東京神宮
豊田 ▽2回戦 11－5 関布
豊田 ▽3回戦 3－2 高岡
豊田 ▽準々決勝 5－2 佐倉
豊田 ▽準決勝 5－3 江戸川中央
豊田 ▽決勝 2－1 取手

あいさつする豊田シニア・倉知俊彦会長

太田稔彦豊田市長が祝辞

栄光の一部始終をスライドショーで紹介

会場を盛り上げる地元の「松平わ太鼓」

感謝の言葉

小林 晋也監督

本日はお忙しいなか、また休日にもかかわらず、太田市長様はじめ野球にたずさわる皆様のご出席をいただき、この優勝祝勝会が開催されることは、私どもにとって感謝の限りです。

先ほどから皆様の温かいお言葉を頂戴し、身の引き締まる思いと全国優勝した喜びでいっぱいです。本日、この壇上で皆様に優勝のご報告ができる私たちは、日本一の幸せ者と思っております。

39年間、優勝は関東、関西のチームがするものだと思っておりましたが、ここ数年、東海連盟各チームが、強い関東や関西のチームの胸を借り、それぞれのレベルが向上してきているのを実感していました。その証拠に、本年度は5代表全チームが初戦突破という素晴らしい記録を立て、最終的に43名の監督の思いを込め、また力を貸していただいて戦った代表がわれわれ豊田だと思っております。

スーパースターがいるチームではありません。全員の力の結集と団結力だと思います。心を一つに戦った選手、ベンチから外れた選手、父母会、事務局、スタッフ。三位一体の言葉通りの素晴らしい組織力で勝てた。そして忘れてはならないのは、夢破れ、全国に出場できなかった先輩たち、その思いを込め、豊田シニアの歴史と伝統を心に込め、野球ができたこと。いろんな要素で素晴らしい成績を残せたこと。何度も言いますが、すべてに感謝です。

この日本選手権優勝を糧にして、またおごることなく原点に戻り、今まで通りの豊田シニアでありたいと思います。

全国優勝を糧に次へチャレンジ

そして選手にいつも言っている通り

家族　学業　友達

①家族を大切にし②学業をおろそかにせず③友達はライバルーをキーワードに、『最後まであきらめない』をモットーに、今後も教え、教えられるチームを目指していく所存です。

ただ、いつまでも優勝に酔っている訳にはいきません。本日の優勝祝勝会を最後に、勝った喜びはひとまずそっと胸にしまいます。

Next Challenge!!

本日はありがとうございました。